

2026 年度版 交通事故の実態

2025 年度の事故発生状況
(2025.04 ~ 2026.03)



SHINKOKYO

神奈川県自動車交通共済協同組合

2026 年度版「交通事故の実態」の発刊にあたって

当組合は、交通事故の防止を最重要課題として取り組んでいます。

2025 年度は、交通事故防止重点項目として、「交差点事故の根絶」「追突事故の根絶」「構内事故の根絶」を掲げ、組合員のご理解とご協力のもと、コメントリー運転の実践を推進し、交通事故防止に向けた取り組みを行いましたが、対人事故では交通弱者との死亡事故が4件、また、高額賠償事案につながる後遺障害事故が増加、対物事故では構内における建造物損壊による高額賠償事案が発生し、収益に影響を及ぼす結果となりました。

ここに、2026 年度版「交通事故の実態」として、2025 年度の交通事故の発生状況を統計資料として公表いたします。

組合員の皆様におかれましては、一件でも交通事故を減少させるため、事業所の交通事故防止活動にご活用いただければ幸いに存じます。

2025 年度交通事故防止重点項目

- 交差点事故の根絶
- 追突事故の根絶
- 構内事故の根絶

データの分類は、各年度ごとに「全事故」や「共済種目別」に行っています。

- 「全事故」とは、各期間内に受け付けた事故件数
- 「共済種目別」とは、共済契約種目別に事故処理をした件数

「支払共済金」には、確定前の支払備金も含んでいます。

目 次

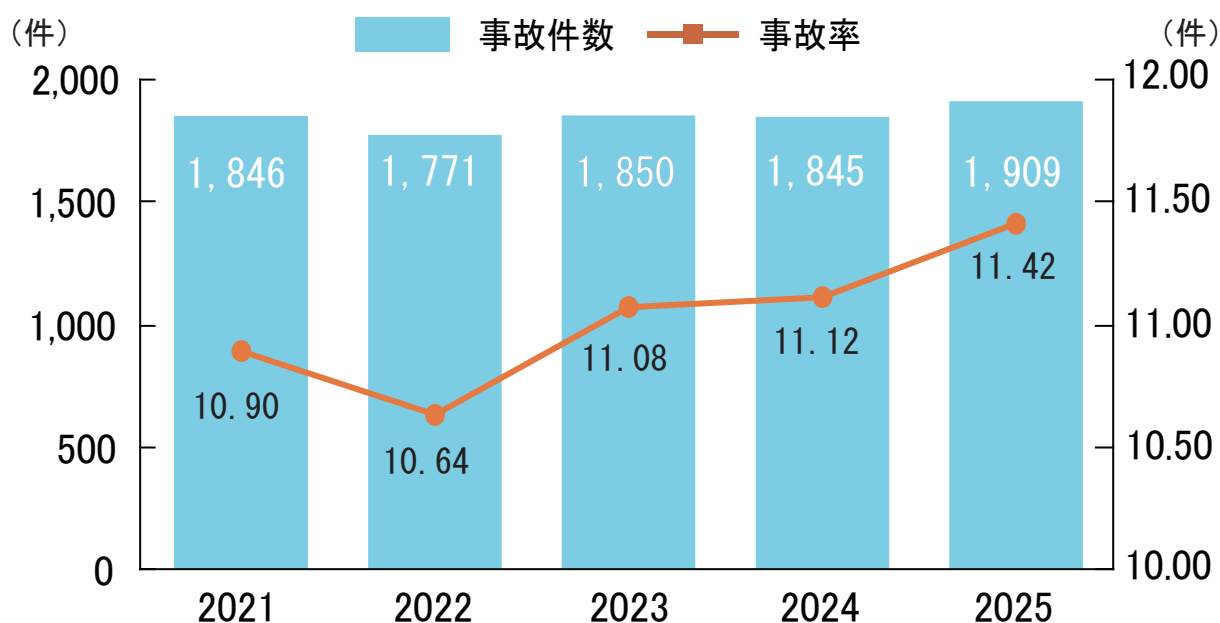
1. 交通事故発生状況（全事故）.....1 頁	5. 過去5年間における高額賠償事案の事故発生状況.....16 頁
(1) 事故発生件数と事故率（2021～2025年度）	(1) 対人共済
(2) 月別事故発生件数（2025年度）	① 高額賠償事案（1,000万円以上）の事故発生状況
(3) 類型別事故発生件数（2025年度）	② 道路形状別の事故発生状況
(4) 道路形状別事故発生件数（2025年度）	③ 原因別の事故発生状況
(5) 発生時間帯別事故発生件数（2025年度）	④ 類型別の事故発生状況
(6) 運転者年齢層別事故発生件数（2025年度）	(2) 対物共済
(7) 原因別事故発生件数（2025年度）	① 高額賠償事案（200万円以上）の事故発生状況
2. 共済種目別事故発生状況.....5 頁	② 道路形状別の事故発生状況
(1) 共済種目別事故発生件数・事故率	③ 原因別の事故発生状況
(2) 対人共済被害者数（死亡・後遺障害・傷害）	④ 類型別の事故発生状況
(3) 対物共済類型別事故発生件数	6. 過去5年間における運転者年齢層別の事故発生状況（全事故）.....20 頁
3. 交通事故防止重点項目に係る事故発生状況(2025年度).....6 頁	(1) 運転者年齢層別の道路形状別事故発生状況
(1) 交差点事故の実態	(2) 運転者年齢層別の類型別事故発生状況
① 交差点事故の類型別事故状況（全事故）	(3) 運転者年齢層別の時間帯別事故発生状況
② 交差点事故の原因別事故状況（全事故）	7. 2025年度交通事故防止強化月の事故発生状況.....23 頁
③ 交差点事故（対人・対物共済）の支払共済金	(1) 月別事故発生件数
(2) 追突事故の実態	① 全事故
① 追突事故の発生場所別と事故原因（全事故）	② 対人共済
② 追突事故（対人・対物共済）の支払共済金	③ 対物共済
(3) 構内事故の実態（対物共済）	8. 2025年度交通事故防止強化月の結果について.....24 頁
① 構内事故の類型別事故状況	(1) 重点項目別事故発生件数
② 構内事故の原因別事故状況	(2) 交通事故防止強化月ポスターの作成
③ 構内事故の支払共済金	9. 交協連傘下15組合の2025年度事故発生状況.....25 頁
(4) 交通弱者を被害者とする事故の実態（対人共済）	(1) 事故発生状況（対人・対物事故）
① 交通弱者との道路形状別事故状況	(2) 原因別事故発生状況（対人事故）
② 交通弱者との原因別事故状況	(3) 類型別事故発生状況（対人事故）
③ 交通弱者被害者態様別（死亡・後遺障害・傷害）の支払共済金	(4) 運転者年齢層別事故発生状況（対人事故）
④ 交通弱者年齢層と事故発生場所	
⑤ 交通弱者被害者類型・態様別	
4. 過去5年間における発生事故に係る支払共済金.....15 頁	

1. 交通事故発生状況（全事故）

（1）事故発生件数と事故率（2021～2025年度）

2025年度は、全事故件数、事故率ともに過去5か年度で最も多くなりました。

共済種目別事故発生件数では、対物と車両が過去5か年度で最も多くなりました。



※事故率は、100両当りの1年間の事故発生割合（件数）を示します。

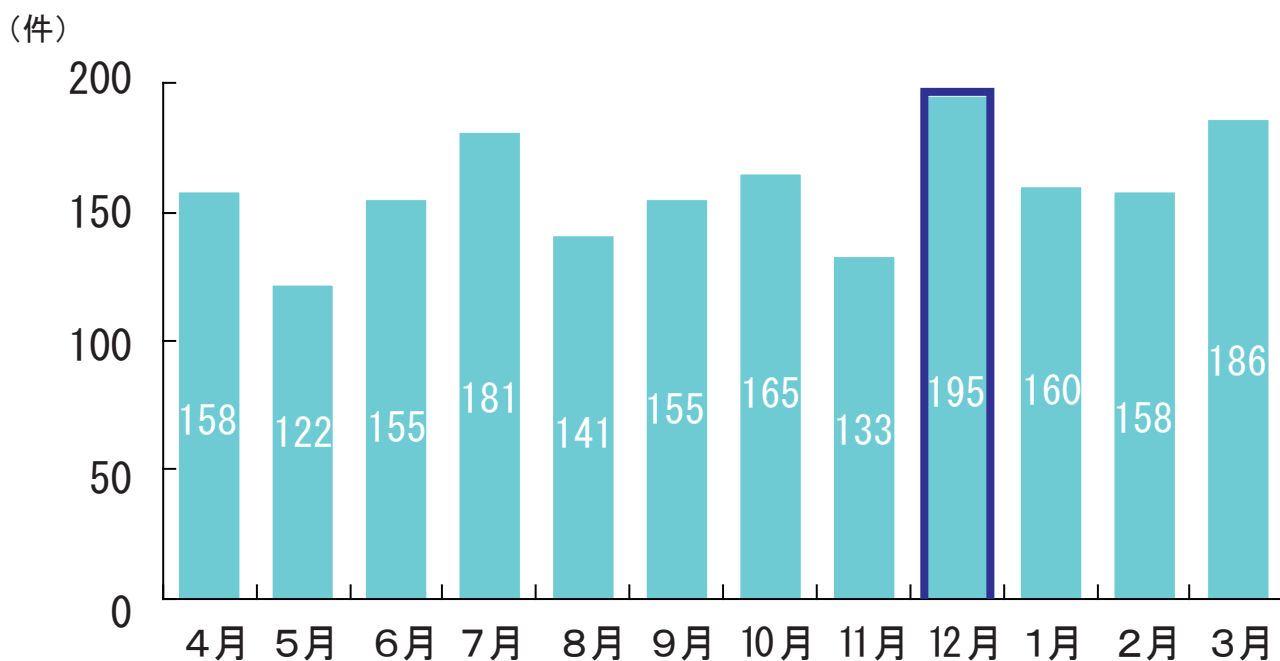
共済種目別事故発生件数

共済種目別	2021	2022	2023	2024	2025
対 人	332	343	347	309	315
搭 傷	0	1	3	2	0
対 物	1,690	1,640	1,679	1,709	1,755
車 両	113	111	124	106	144
合 計	2,135	2,095	2,153	2,126	2,214
全事故件数	1,846	1,771	1,850	1,845	1,909

※全事故の発生件数は、1件の事故につき複数共済種目での受付を含んでいます。また、各年度の決算時の件数を示します。

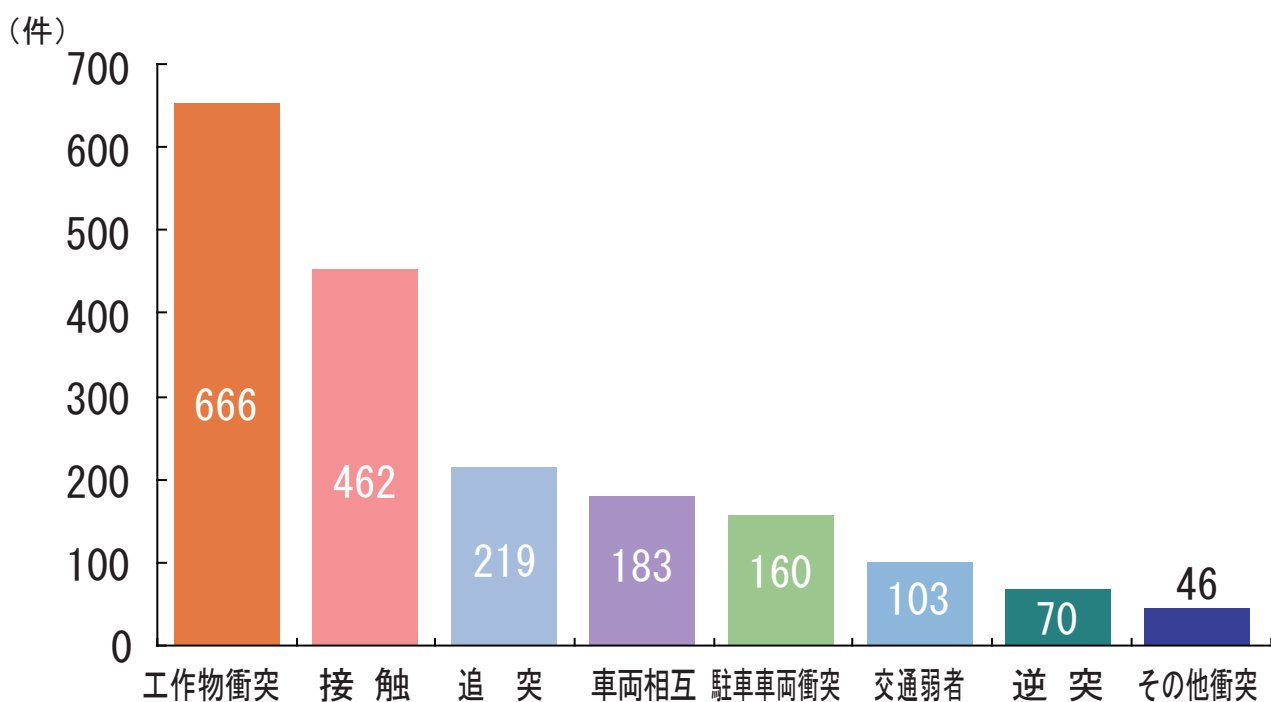
(2) 月別事故発生件数 (2025年度)

月別では、前年度同様に12月が最も多く195件でした。



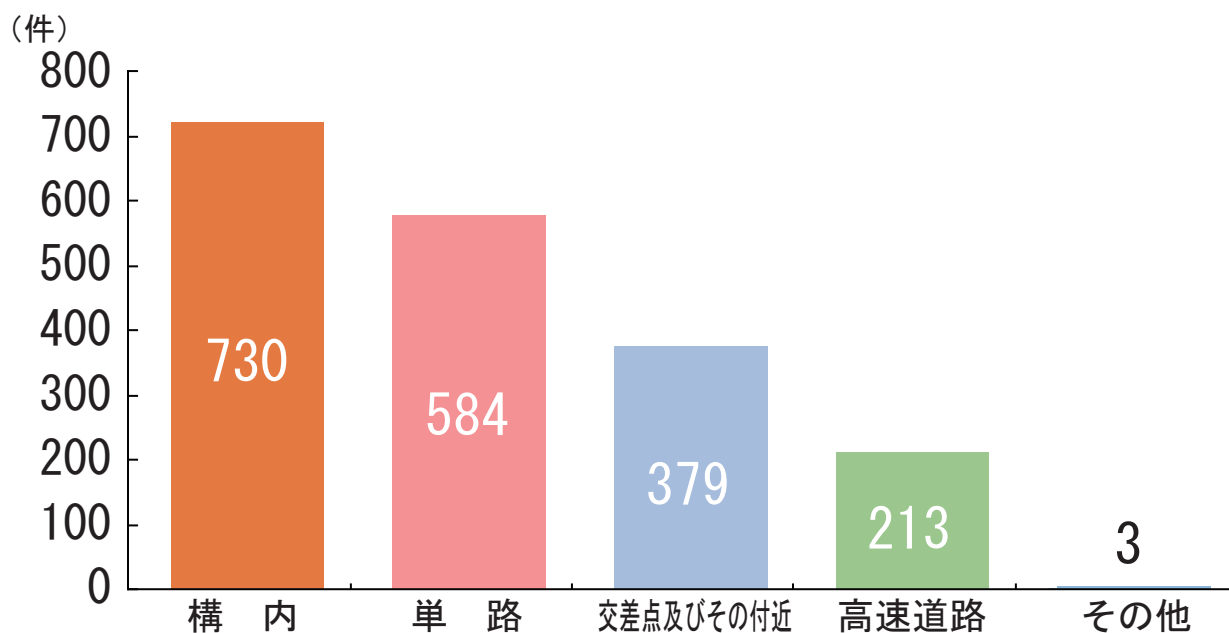
(3) 類型別事故発生件数 (2025年度)

類型別では、工作物への衝突が最も多く、全事故件数1,909件のうち 34.9% (666件) となりました。交通事故防止重点項目で掲げている追突では、前年度比10.1% (20件) の増加となりましたが、交通弱者では、前年度比12.7% (15件) 減少しました。



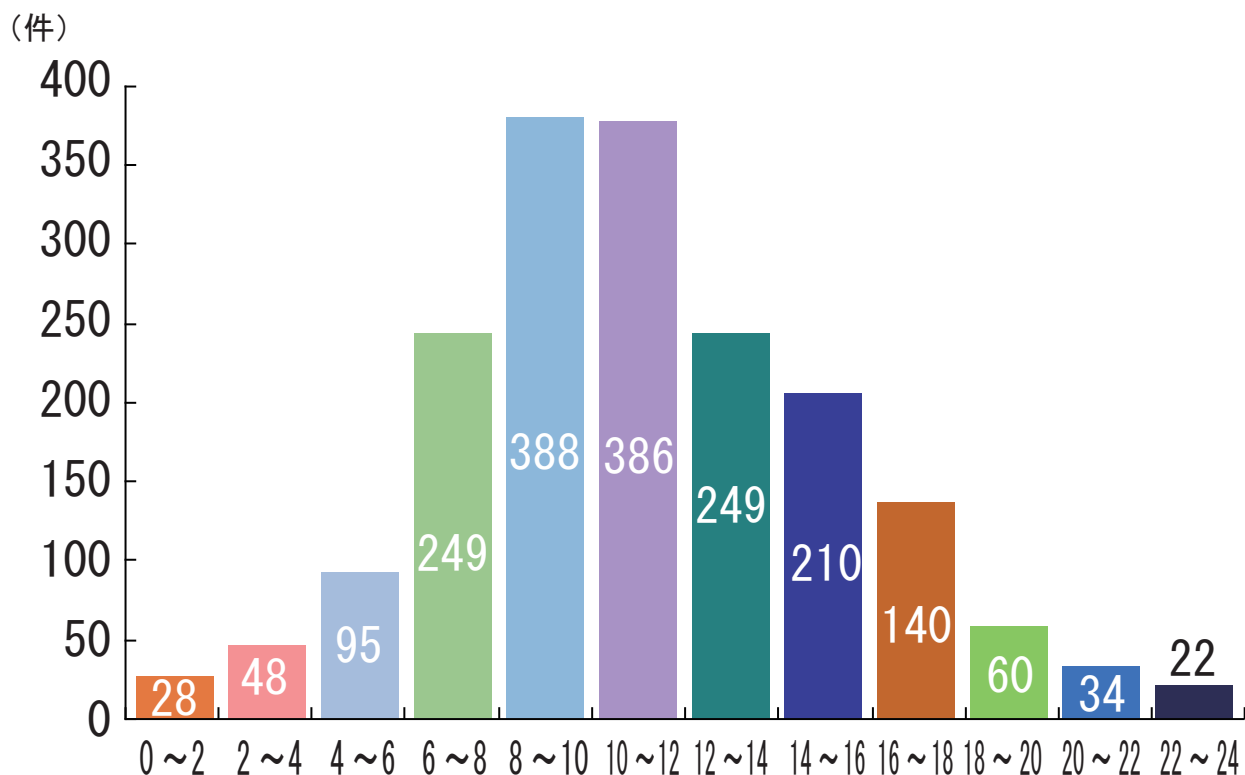
(4) 道路形状別事故発生件数 (2025年度)

道路形状別では、交通事故防止重点項目に掲げている構内で前年度比で0.1%(1件)、交差点及びその付近で前年度比で13.8%(46件)増加しました。



(5) 発生時間帯別事故発生件数 (2025年度)

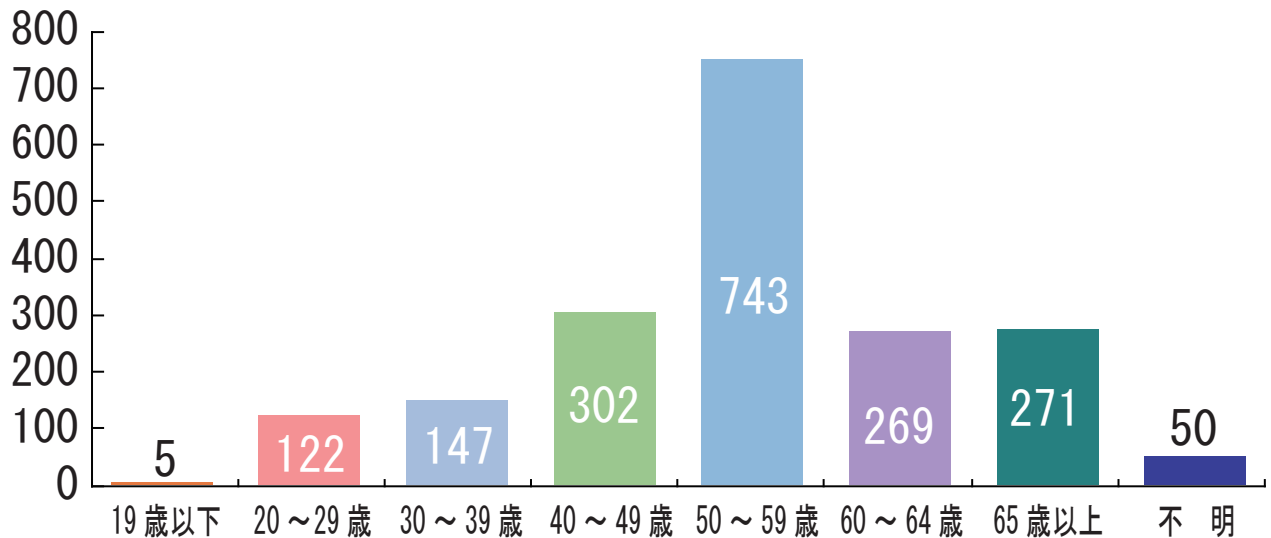
発生時間帯別では、前年度同様8時から12時までの時間帯が多く、全体の40.5%を占めております。また、早朝の4時から6時の時間帯に死亡事故が2件発生しております。



(6) 運転者年齢層別事故発生件数 (2025年度)

運転者年齢層別では、50歳代が743件と最も多く、次いで40歳代が302件となっております。また、60～64歳で前年度比18.0% (41件) 増加しました。

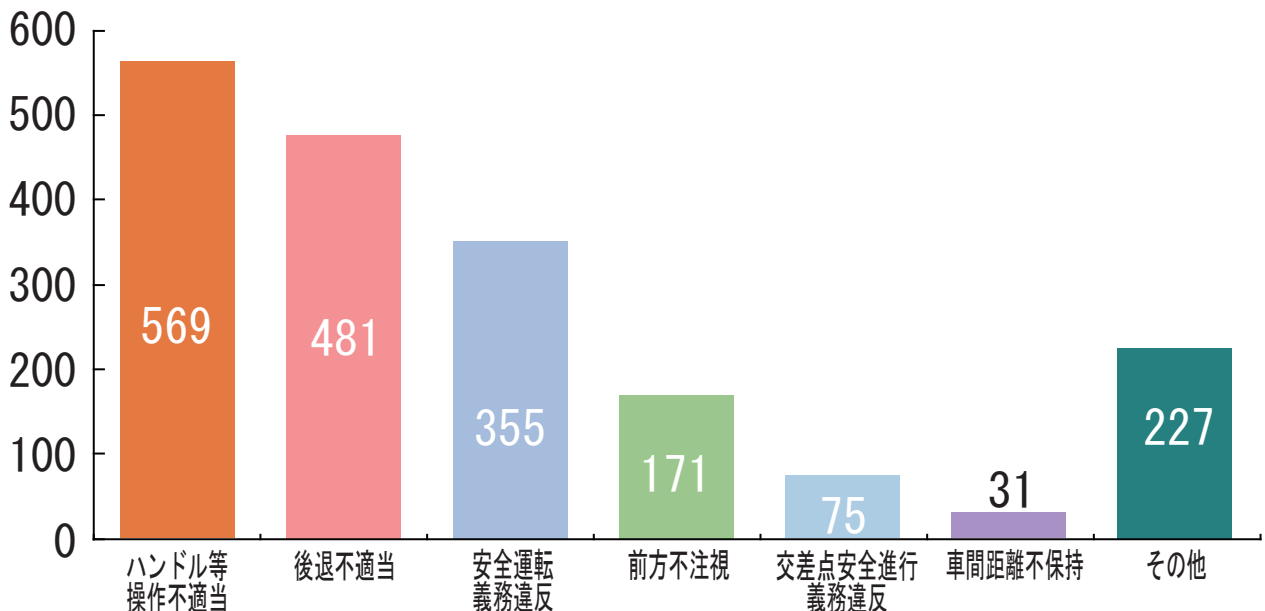
(件)



(7) 原因別事故発生件数 (2025年度)

原因別では、ハンドル等操作不適當が最も多く、次いで後退不適當の順に多く発生しています。

(件)



道路交通法では

- ◇安全運転義務違反とは、他人に危害を及ぼさないような速度と方法で運転しなければならないという運転者の義務に違反したものをいいます。
- ◇交差点安全進行義務違反とは、交差点を通過する際、交差点の通行車両及び横断歩行者に注意し、安全な速度と方法で進行しなければならないという運転者の義務に違反したものをいいます。

2. 共済種目別事故発生状況

(1) 共済種目別事故発生件数・事故率

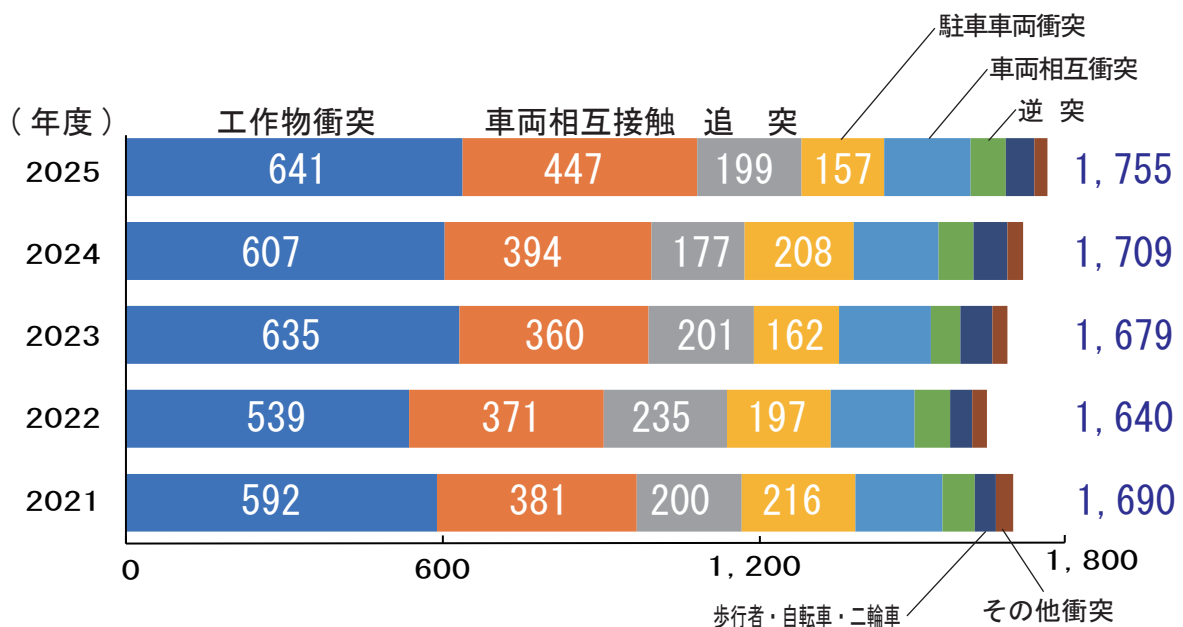
共済種目別		年 度	2021	2022	2023	2024	2025
対人	発生件数（件）		332	343	347	309	315
	死者数（人）		1	1	4	8	4
	傷者数（人）		440	442	447	434	393
	事故率（件）		1.96	2.06	2.08	1.87	1.89
搭傷	発生件数（件）		0	1	3	2	0
	事故率（件）		0	0.02	0.05	0.03	0
対物	発生件数（件）		1,690	1,640	1,679	1,709	1,755
	事故率（件）		12.11	11.89	12.09	12.30	12.44
車両	発生件数（件）		113	111	124	106	144
	事故率（件）		5.04	4.82	5.36	4.77	6.38

(2) 対人共済被害者数（死亡・後遺障害・傷害）

区 分	年 度	2021	2022	2023	2024	2025
① 死 亡（人）		1	1	4	8	4
② 後遺障害（人）		20	39	22	20	21
③ 傷 害（人）		420	403	425	414	372
④ 合 計（人）		441	443	451	442	397
⑤ ①+②（人）		21	40	26	28	25
⑥ ⑤の④に対する割合（％）		4.8	9.0	5.8	6.3	6.3

(3) 対物共済類型別事故発生件数

対物事故による工作物衝突は過去5年間で最も多く、前年度比で5.6%(34件)増加しました。駐車車両衝突は過去5年間で最も少なく、前年度比で24.5%(51件)減少しました。



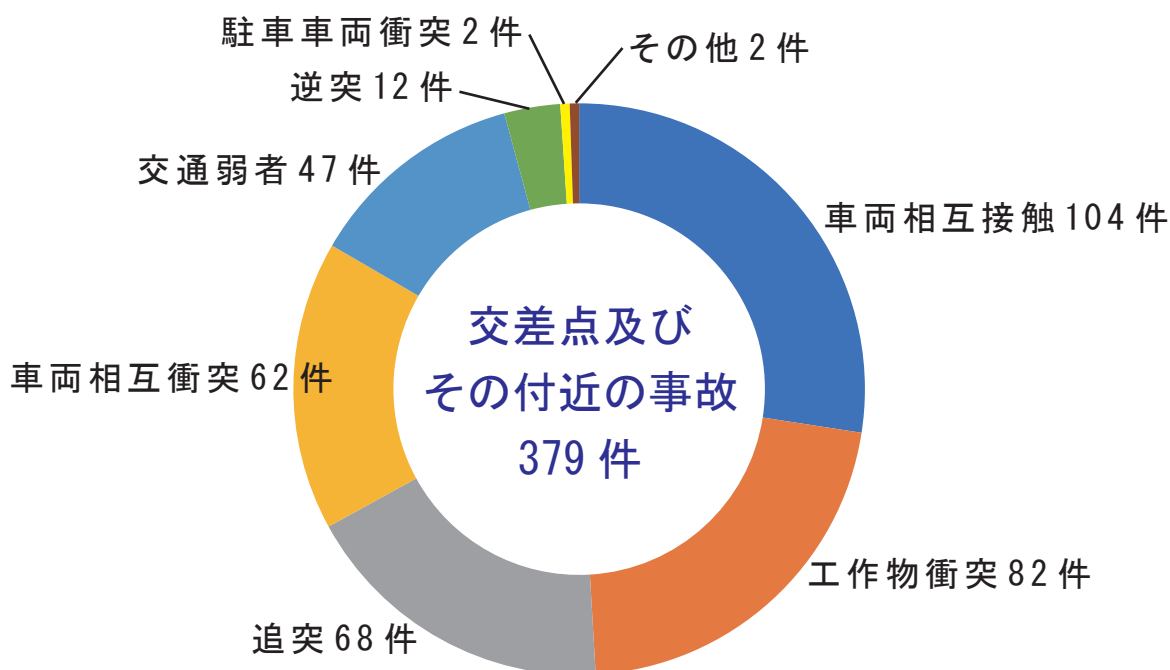
3. 交通事故防止重点項目に係る事故発生状況 (2025 年度)

(1) 交差点事故の実態

① 交差点事故の類型別事故状況 (全事故)

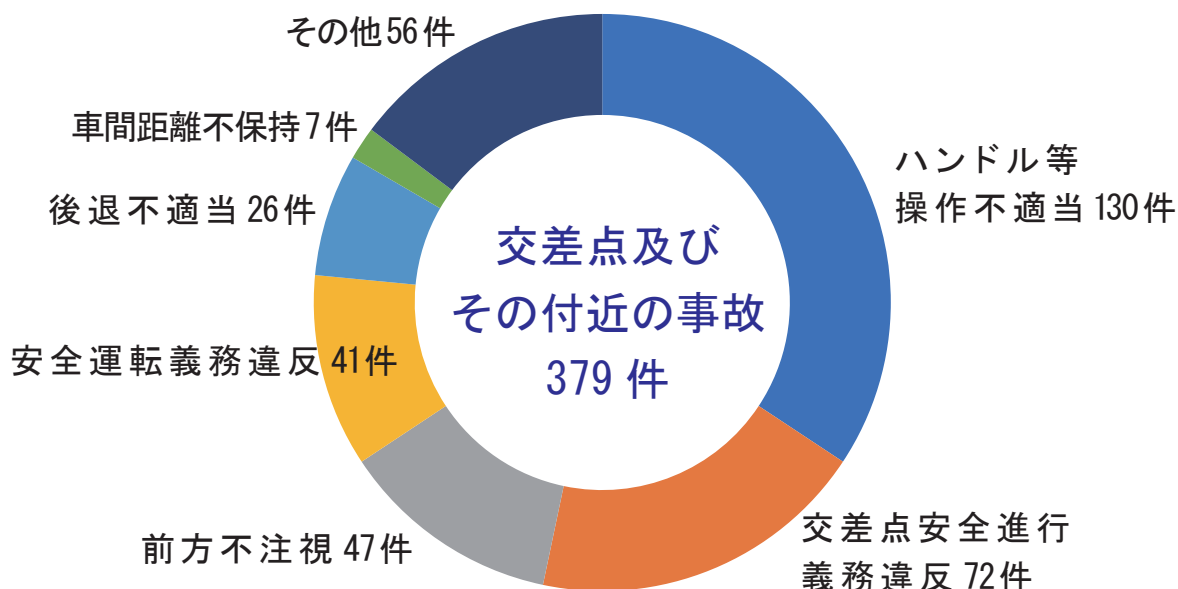
交差点事故の類型別では、依然として車両相互接触が発生件数全体の27.4%と最も多くなっています。次いで、工作物衝突（信号機、標識、ガードレール等）が前年度比43.9%（25件）増加していることから、対物事故全体の増加に繋がる要因になりました。

また、高額賠償事案につながりやすい「交通弱者（歩行者・自転車・二輪車）」（以下、「交通弱者」といいます。）は、前年度と比べ2件増加しています。



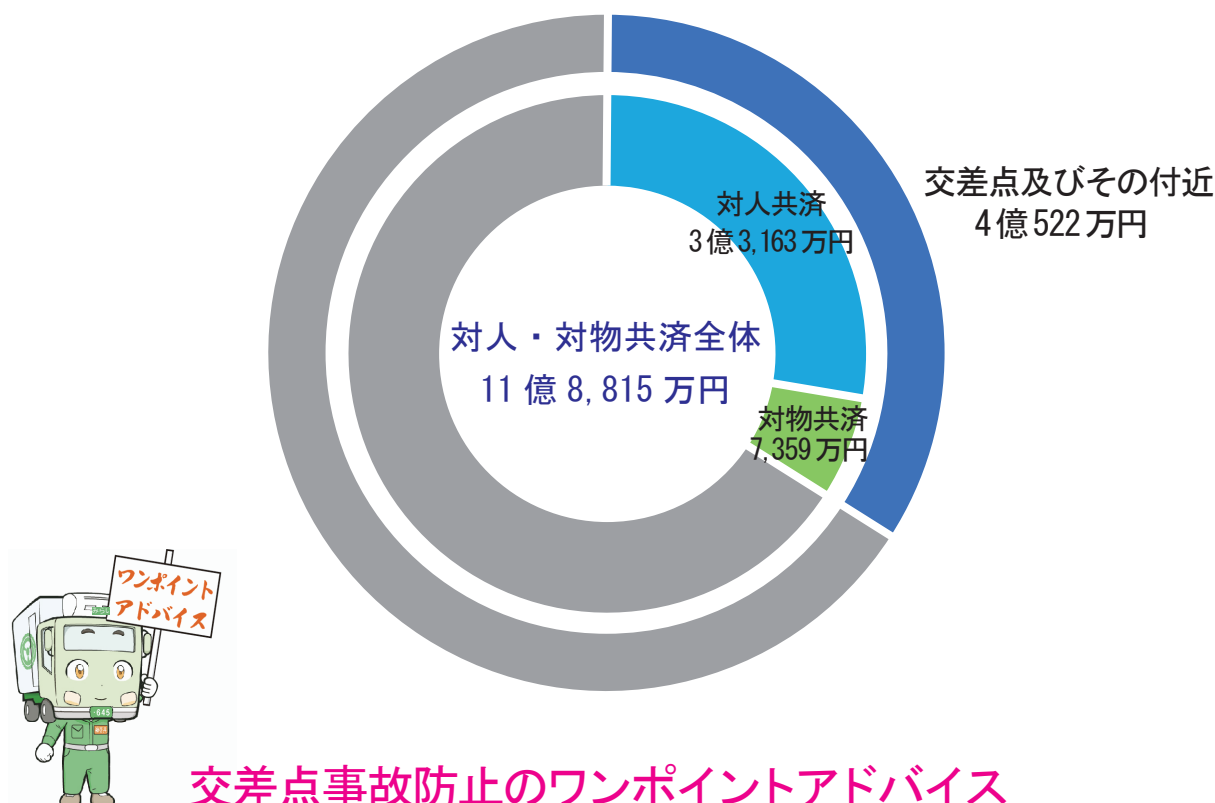
② 交差点事故の原因別事故状況 (全事故)

交差点事故の原因別では、ハンドル等操作不適當が前年度比で22.6%（24件）増加し、原因別全体の34.3%を占めています。



③ 交差点事故（対人・対物共済）の支払共済金

2025年度の交差点及びその付近の事故による支払共済金は対人共済3億3,163万円、対物共済7,359万円、総額で4億522万円となり、支払共済金全体の34.1%にあたります。（支払共済金全体：11億8,815万円）



交差点での事故原因は、ハンドル等操作不適當、交差点安全進行義務違反が主な原因となっています。車・人が行き交う交差点では、コメンタリー運転を実践して確実な安全確認を行うことが大切です。

1. 一時停止と安全確認

交差点およびその付近で歩行者、自転車を発見したら、停止できる速度に減速し、確実な一時停止と周囲の安全確認をしてから通過しましょう。

2. かもしれない運転の励行

信号の変わり目の進入など、予想外の行動を相手方がすることがあります。来ないだろうの「だろう運転」から、来るかもしれないの「かもしれない運転」を日頃から心掛けましょう。

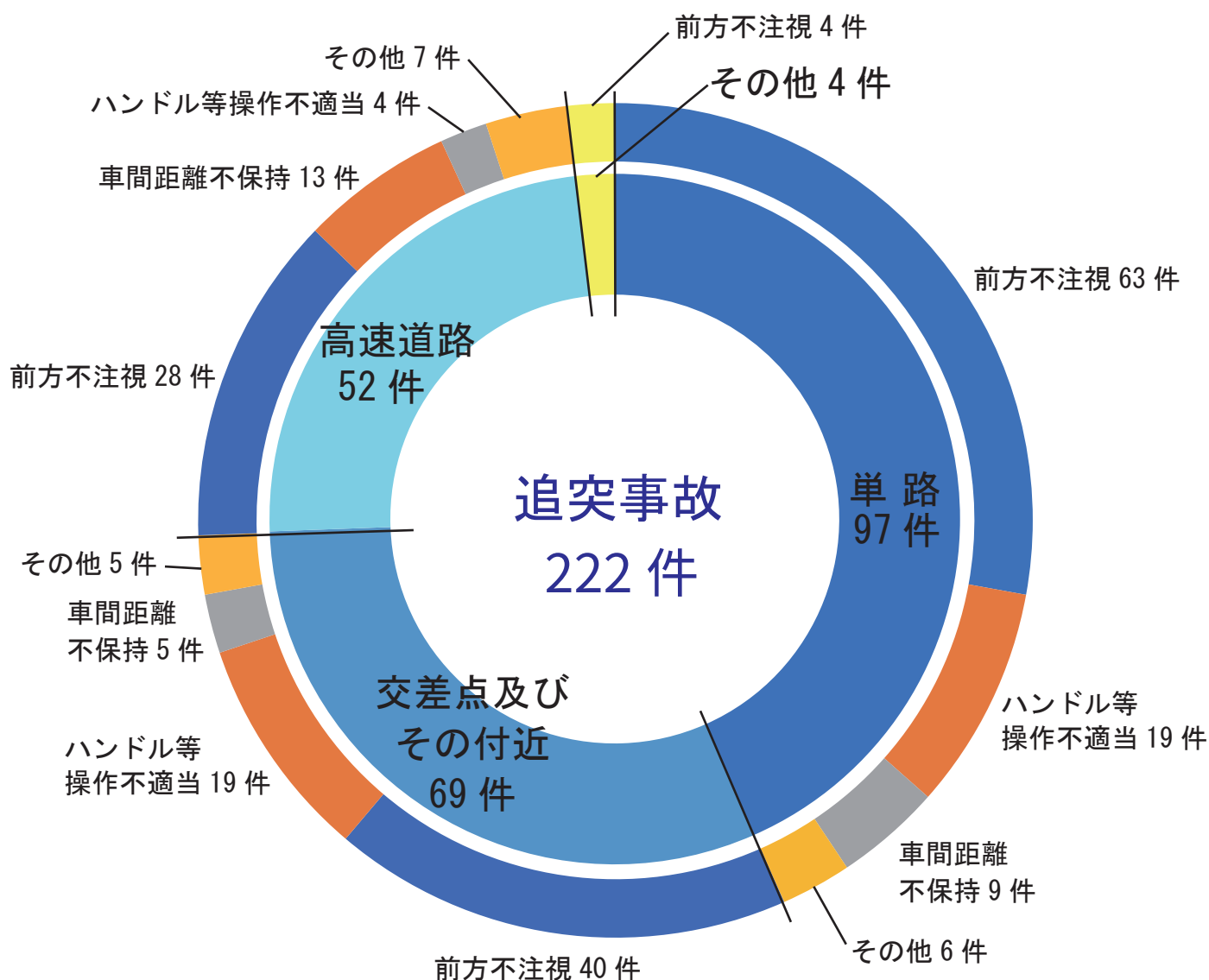
3. コメンタリー運転の実践

渋滞の切れ目を右折するときは、対向車の陰から走行して来る二輪車に注意し、「対向車 停止」「二輪車 注意」などと声に出して、二輪車の有無をしっかりと確認しましょう。

(2) 追突事故の実態

① 追突事故の発生場所別と事故原因（全事故）

追突事故の主な原因は前方不注視で、すべての道路形状で半数以上を占めています。



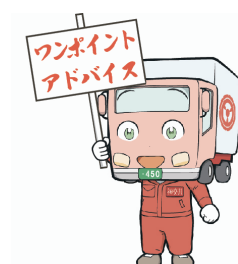
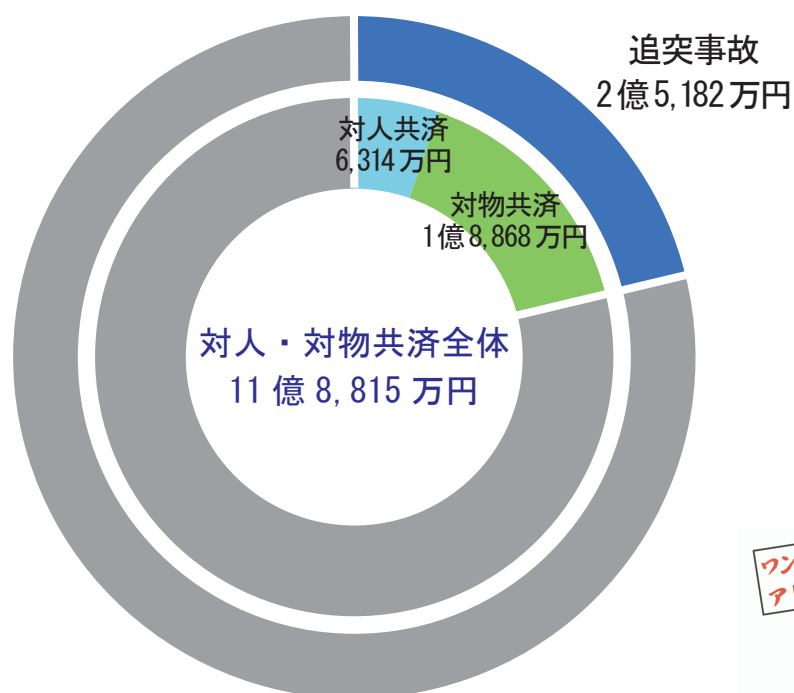
※追突事故 222 件には、交通弱者である二輪車への追突 3 件を含みます。

※前方不注視とは、運転中に脇見やスマートフォンを見たり、カーナビの操作をして前方への注意が不足している状態のことです。

② 追突事故（対人・対物共済）の支払共済金

2025年度の追突事故による支払共済金は、対人共済6,314万円、対物共済1億8,868万円、総額で2億5,182万円となり、支払共済金全体の21.2%にあたります。

（支払共済金全体：11億8,815万円）



追突事故防止のワンポイントアドバイス

追突事故の原因のひとつとして、脇見等により前方車両の発見が遅れ、気が付いてからブレーキを踏んだが間に合わずに追突するケースがあります。運転中は運転に集中し、前方を広く「よく見る」ことが大切です。

1. 脇見につながる行為に注意

渋滞中など速度の出ていない時は、気の緩みからつい前方から目線をそらしてしまいがちです。運転中は前車をはじめ周囲の動向に十分注意してください。

2. 「よく見て」追突事故の防止

高速道路での追突事故は、渋滞中に多発しているのが実態です。スピードが緩むと、気も緩みがちになります。渋滞中でも決して油断をせず、前方への注意を怠らないように努めましょう。

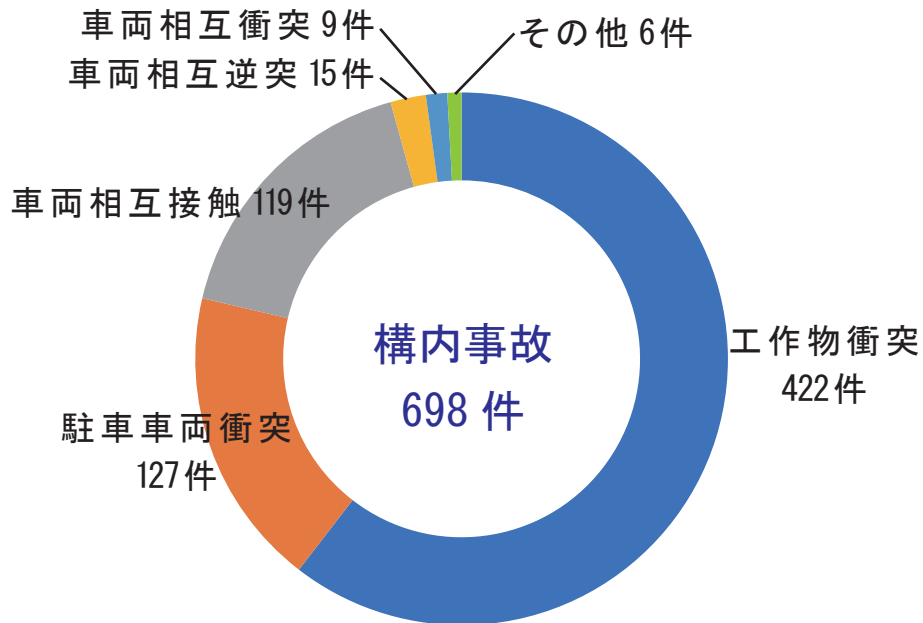
3. コメンタリー運転の実践

「信号 よし」「前方 よし」「車間距離 注意」などと声に出して、自分の目と耳と声での安全確認を心掛けましょう。

(3) 構内事故の実態（対物共済）

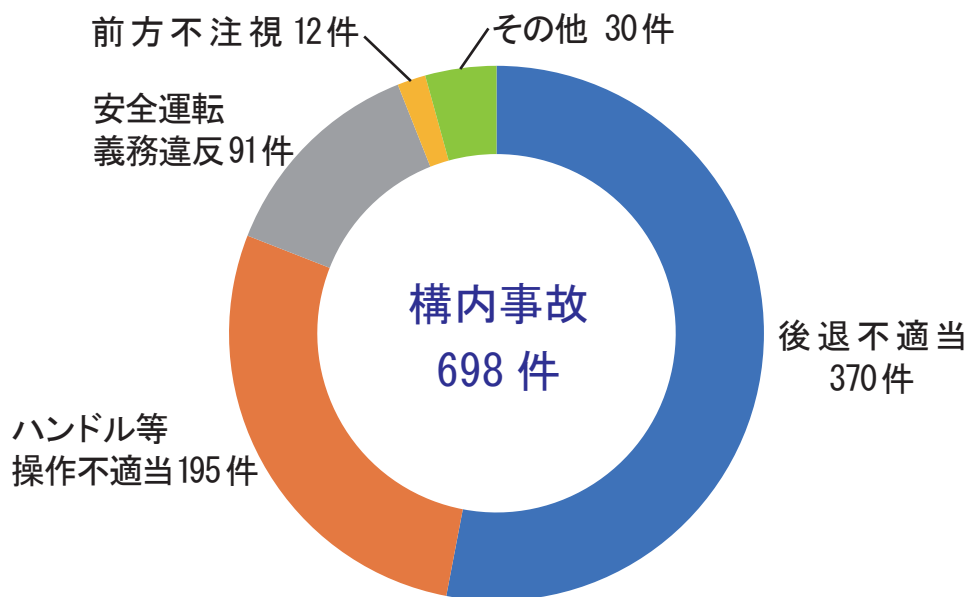
① 構内事故の類型別事故状況

構内事故の類型別では、門柱、シャッター等による高額賠償事故を含む工作物への衝突事故が422件発生と最も多く、構内事故全体の60.5%を占めています。



② 構内事故の原因別事故状況

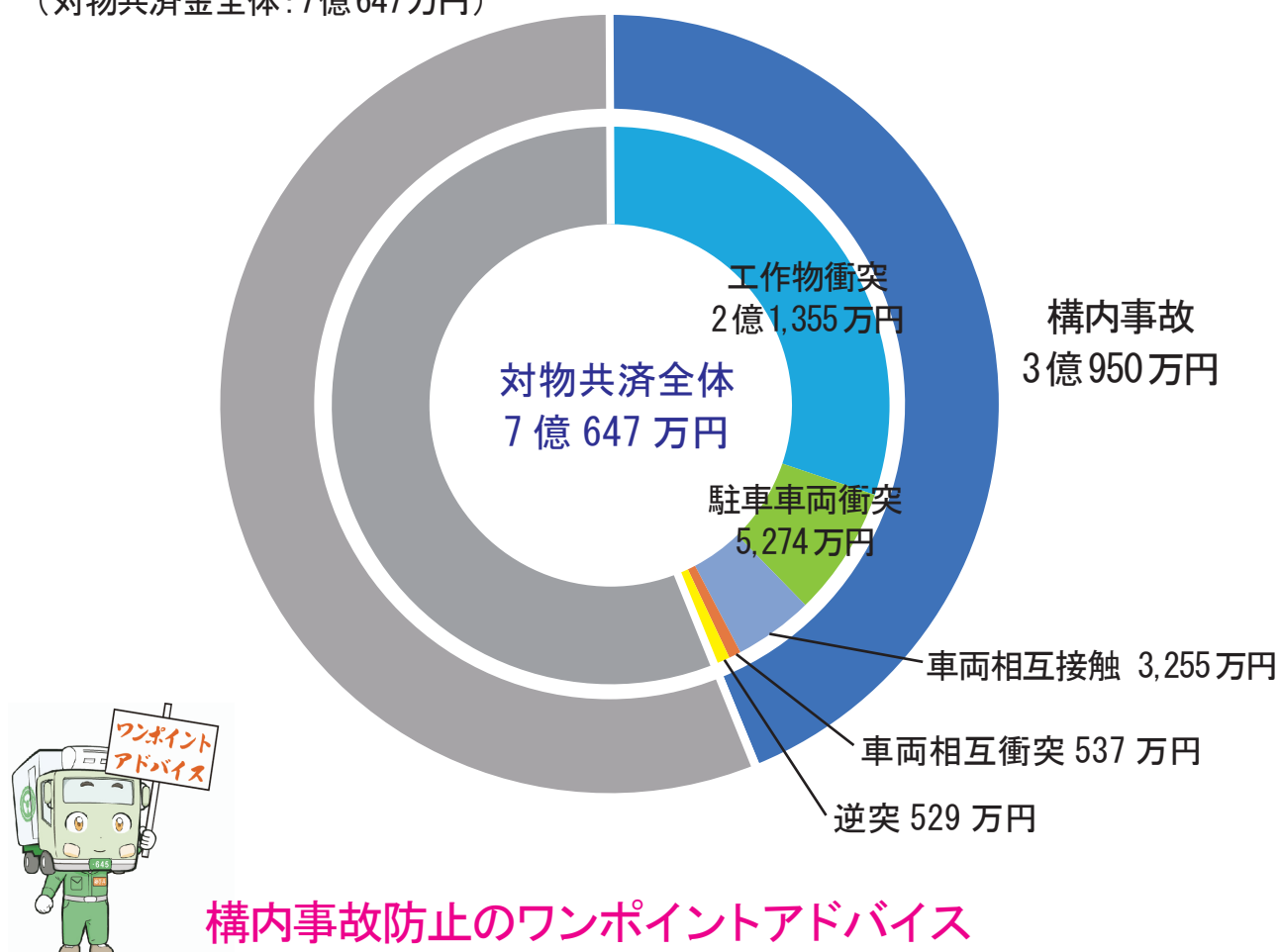
構内事故の事故原因別では、後方に対する安全確認が不十分な後退不適當が370件と53.0%を占めています。



※安全運転義務違反には、構内を移動する際にウイングや観音扉の閉め忘れにより、構内施設や他車両に衝突した事故等が含まれます。

③ 構内事故の支払共済金

2025年度の構内事故による支払共済金は、総額で3億950万円となり、そのうち工作物への衝突事故が2億1,355万円と構内事故による支払共済金の69.0%を占めています。また、構内事故による支払共済金総額は、対物共済全体の43.8%にあたります。（対物共済金全体：7億647万円）



構内での事故の要因として「いつもの構内だから大丈夫といった気の緩み」が挙げられます。慣れた構内ほど油断せず、警戒心を高めることが大切です。

1. 慣れた構内でも油断しない

慣れた構内でも油断せず、障害物は必ずあるという気持ちで、構内施設や他車両の安全を確認しましょう。

2. 後退時の安全確認の徹底

トラックの後方はほとんどが死角です。後方が見えない状況で安全に後退するためには、いったん下車して自分の目で周囲の安全確認をしましょう。

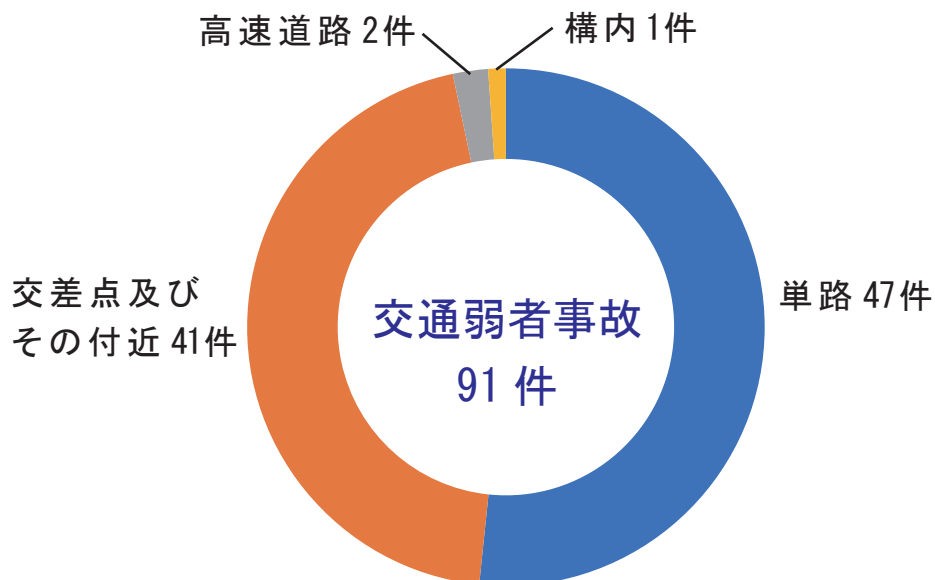
3. コメンタリー運転の実践

後退時は、必ず下車して「後方 よし」「上方 よし」などと声に出して安全確認をし、慣れや油断からの事故を防止しましょう。

(4) 交通弱者を被害者とする事故の実態（対人共済）

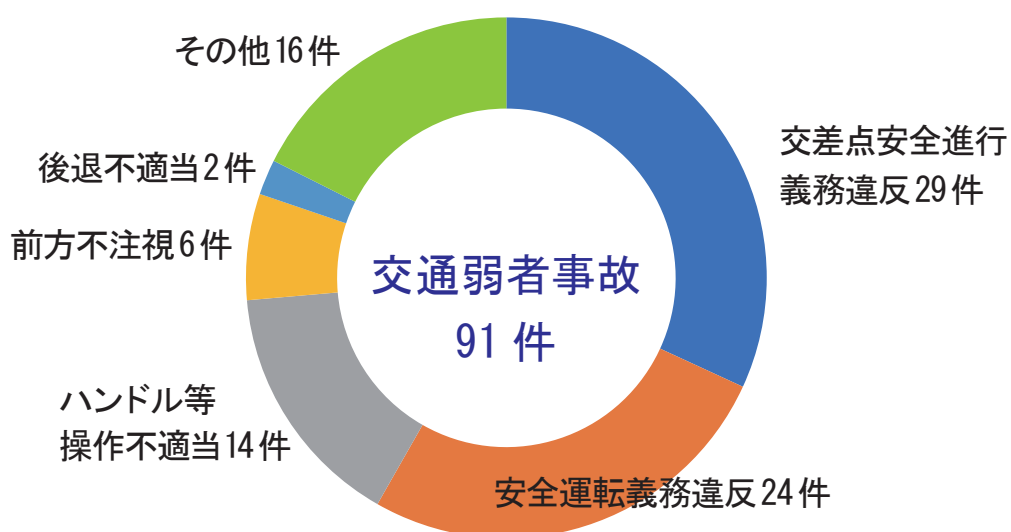
① 交通弱者との道路形状別事故状況

交通弱者を被害者とする事故91件のうち、51.6%（47件）が単路で発生しています。



② 交通弱者との原因別事故状況

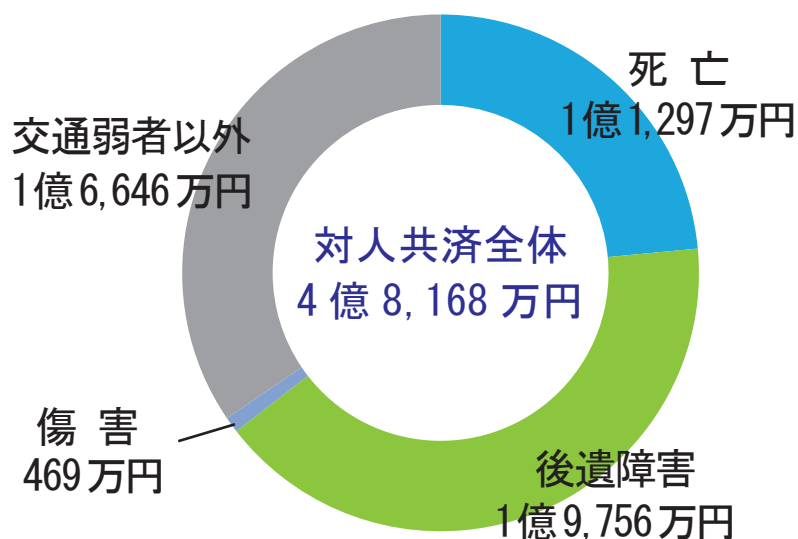
交通弱者との事故原因では、交差点を通過する際の安全確認を怠ったことによる交差点安全進行義務違反が29件と多く、安全運転義務違反24件を合わせると全体の58.2%（53件）を占めています。



③ 交通弱者被害者態様別（死亡・後遺障害・傷害）の支払共済金

2025年度の交通弱者に対する支払共済金は死亡事故に対して1億1,297万円、後遺障害に対して1億9,756万円、傷害に対して469万円で総額3億1,522万円となり、対人共済全体の支払額に占める割合は65.4%となっています。

（対人共済金全体：4億8,168万円）



④ 交通弱者年齢層と事故発生場所

交通弱者を被害者とする事故91件で、被害者数は95人となっています。

発生場所では単路が51.6%を占めています。交差点及びその付近では65歳以上が13人となっており、被害者の高齢化が進んでいます。

(人)

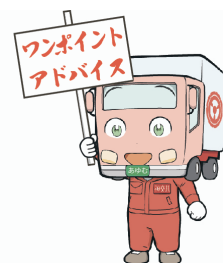
年 齢 \ 場 所	交差点及び その付近	単 路	構 内	高速道路	合 計
6歳以下	2	3			5
7～12歳		2			2
13～15歳					
16～19歳	3	4			7
20～29歳	7	8			15
30～39歳	4	12			16
40～49歳	6	5	1	2	14
50～59歳	3	8			11
60～64歳	5	2			7
65歳以上	13	5			18
合 計	43	49	1	2	95

⑤ 交通弱者被害者類型・態様別

被害者類型・態様別では、二輪車が40人と最も多く発生し、全体に占める割合も42.1%となっています。

(人)

被害者態様	交通弱者			合 計
	歩行者	自転車	二輪車	
死 亡	2	1	1	4
後遺障害	5	6	4	15
傷 害	17	24	35	76
合 計	24	31	40	95



交通弱者との事故防止のワンポイントアドバイス

交通弱者との事故は、「交差点安全進行義務違反」「ハンドル等操作不適當」「安全運転義務違反」が主な原因で発生しています。

1. 周囲の安全確認の徹底

交通弱者との事故は、後遺障害など重大事故につながりやすいため、交差点通行時は減速し、特に右左折時は周囲の安全確認を確実に走り行してください。

2. 生活道路の横断歩行者に注意

人通りの少ない生活道路では、横断歩道の無い場所での横断や駐車車両のある道路において、「歩行者が横断してくるかもしれない」と危険意識を持って運転しましょう。特に高齢者や子どもの歩行者を発見したら、思いやりの気持ちを持って速度を落とし、最徐行または一時停止を心掛けましょう。

3. コメンタリー運転の実践

「歩行者 注意」「自転車 注意」「二輪車 注意」などと声に出して、危険と思われる対象を正確に把握し、認知ミスを防ぎましょう。

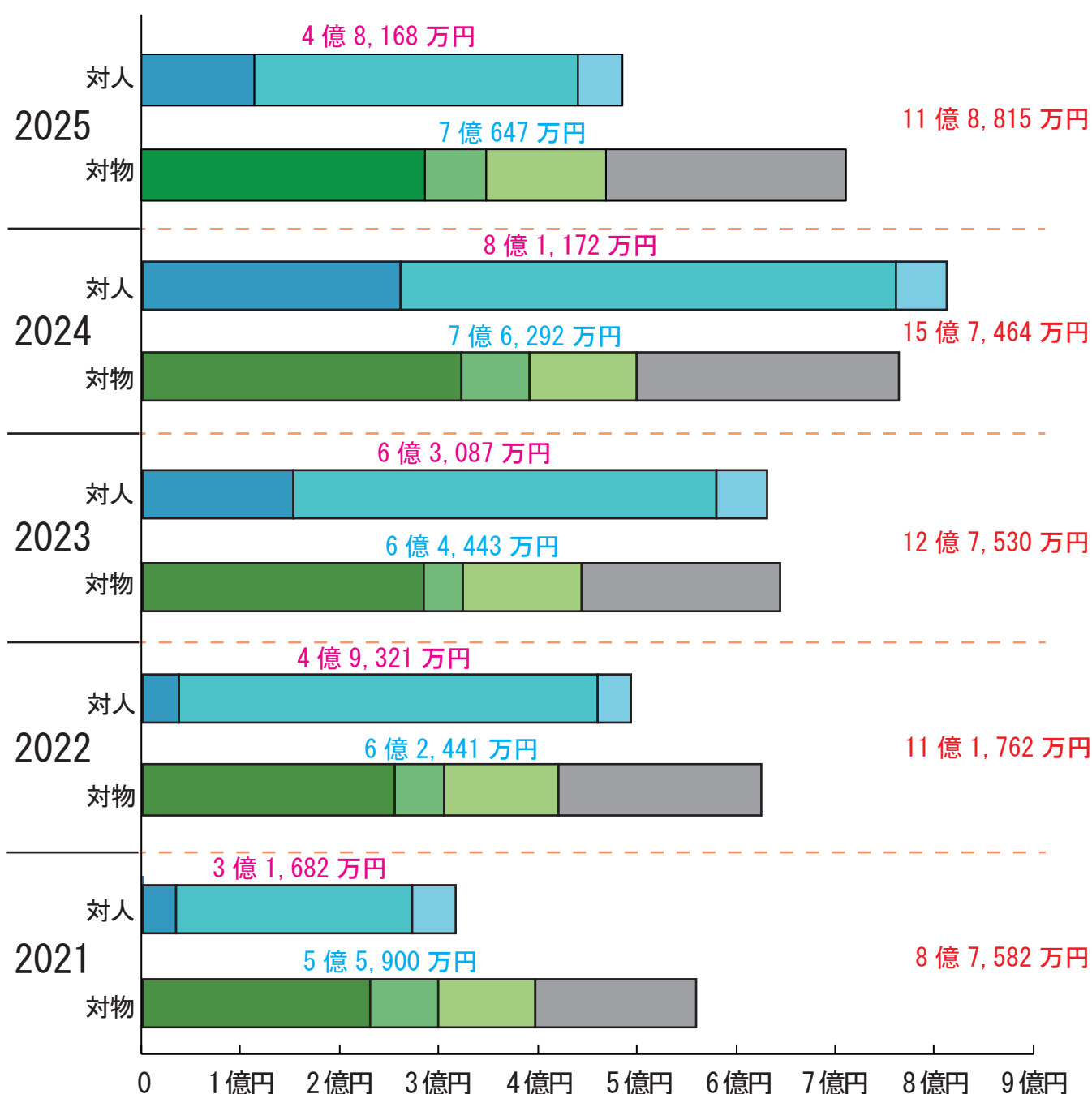
4. 過去5年間に於ける発生事故に係る支払共済金

2025年度は、対人共済では後遺障害、対物共済では工作物衝突による事故が高額賠償事案となり、収益に影響を及ぼしましたが、対人・対物共済の支払共済金総額では11億8,815万円で、前年度と比較して3億8,649万円減少しています。

対人共済： ■ 死 亡 ■ 後遺障害 ■ 傷 害

対物共済： ■ 工作物衝突 ■ 駐車車両衝突 ■ 車両相互接触 ■ その他

(年度)

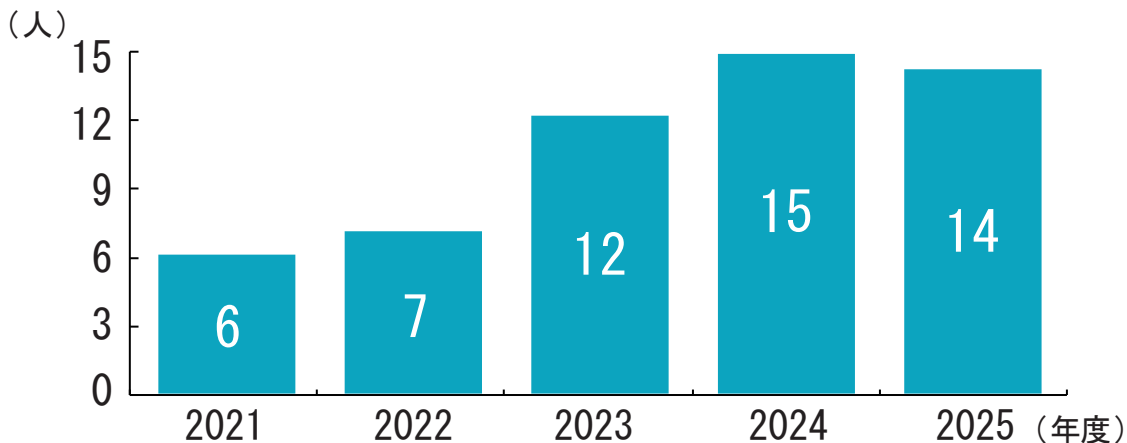


5. 過去5年間における高額賠償事案の事故発生状況

(1) 対人共済

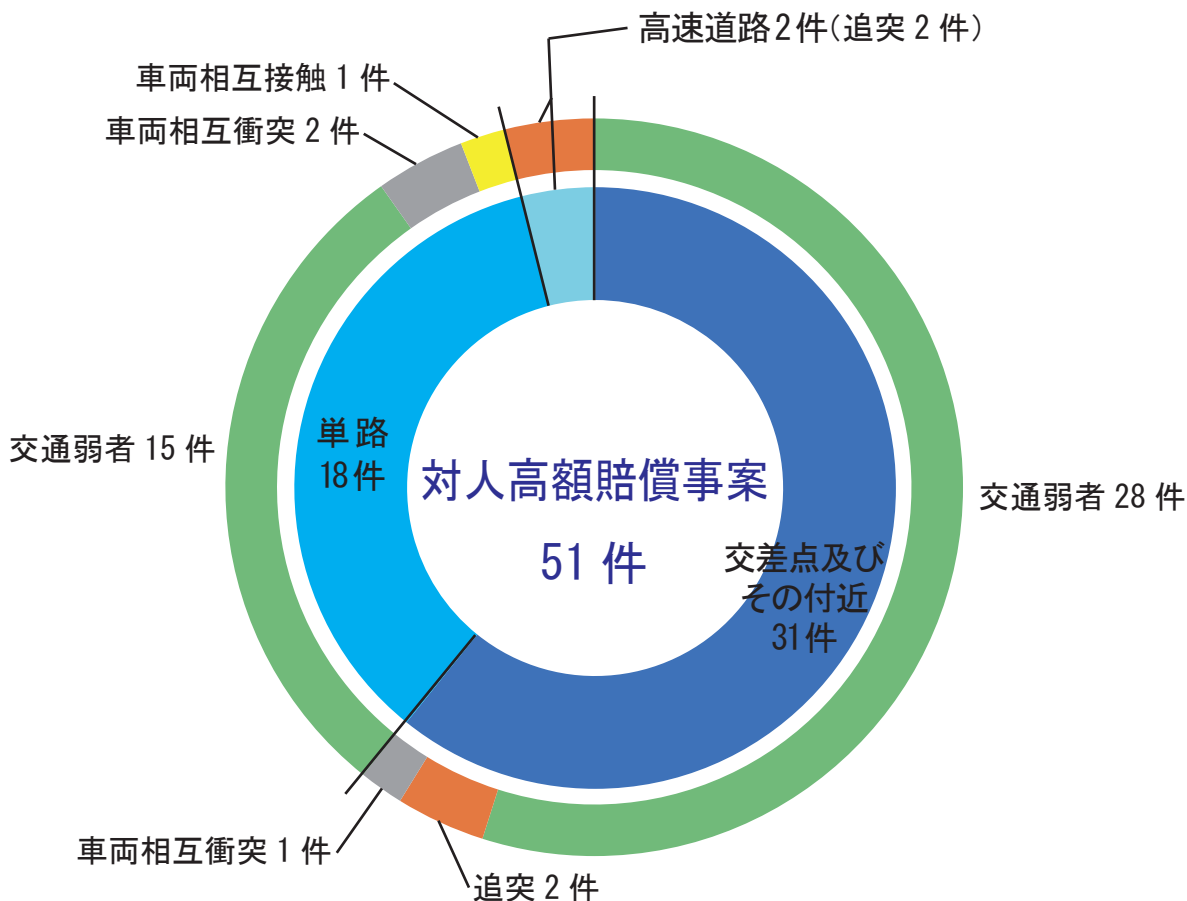
① 高額賠償事案（1,000万円以上）の事故発生状況

2025年度における高額賠償事案の被害者人数は14人となり、過去5年間で2番目に多い人数となりました。



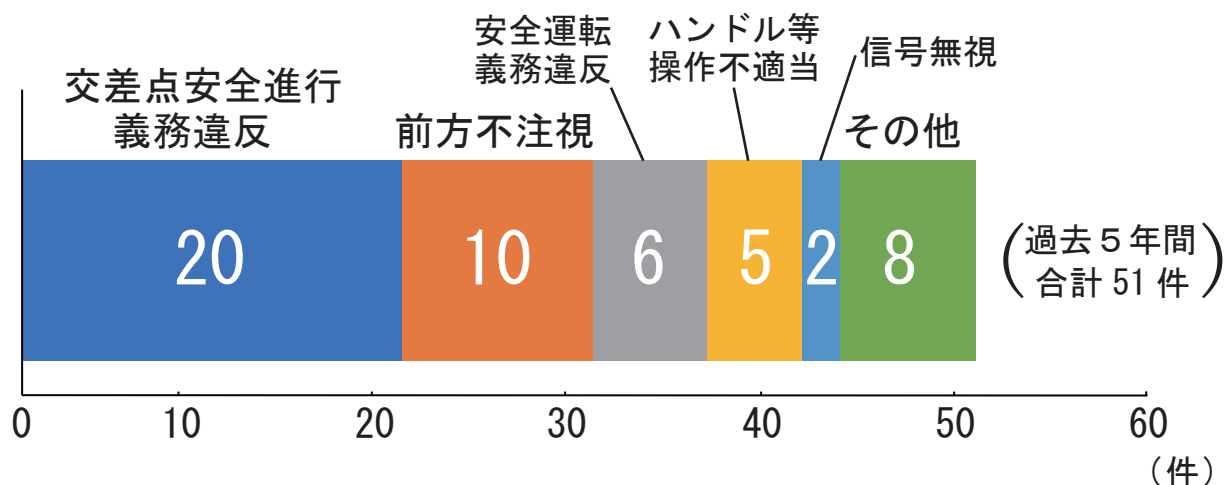
② 道路形状別の事故発生状況

道路形状別では、交差点及びその付近で31件、単路で18件事故が発生しており、その多くは交通弱者との事故が占めています。



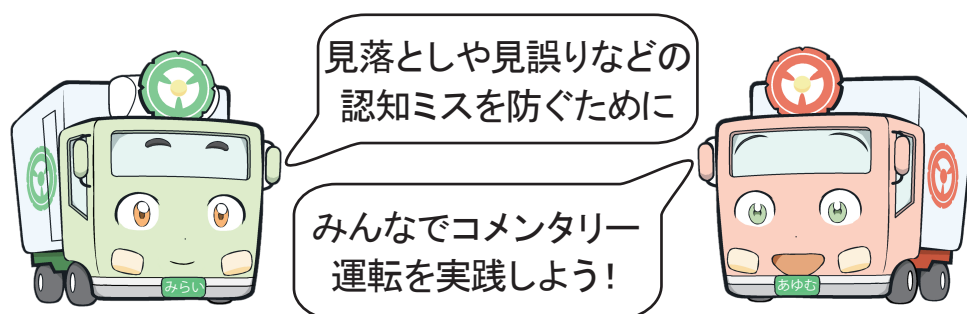
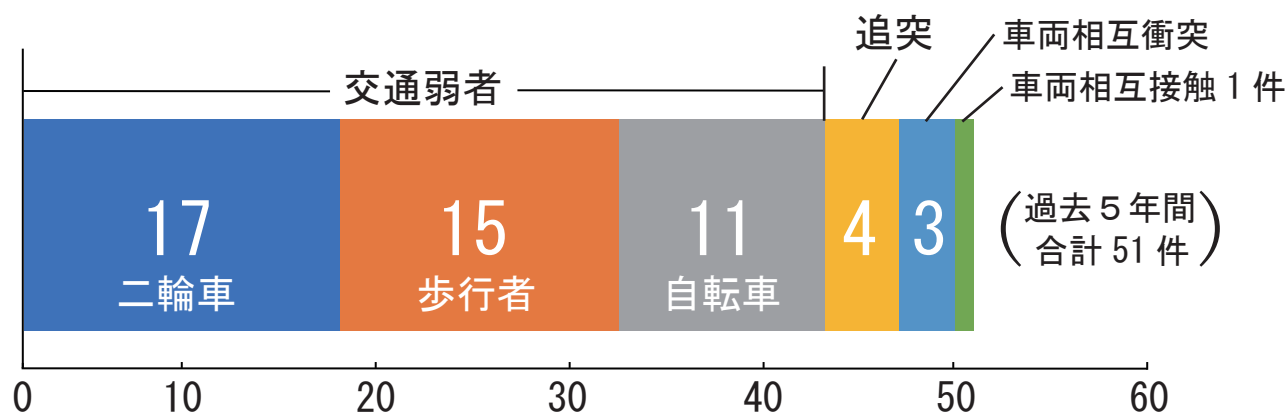
③ 原因別の事故発生状況

原因別では、交差点及びその付近での交差点安全進行義務違反による事故が20件（歩行者10件、自転車8件、二輪車2件）と最も多く、全体の39.2%となっています。



④ 類型別の事故発生状況

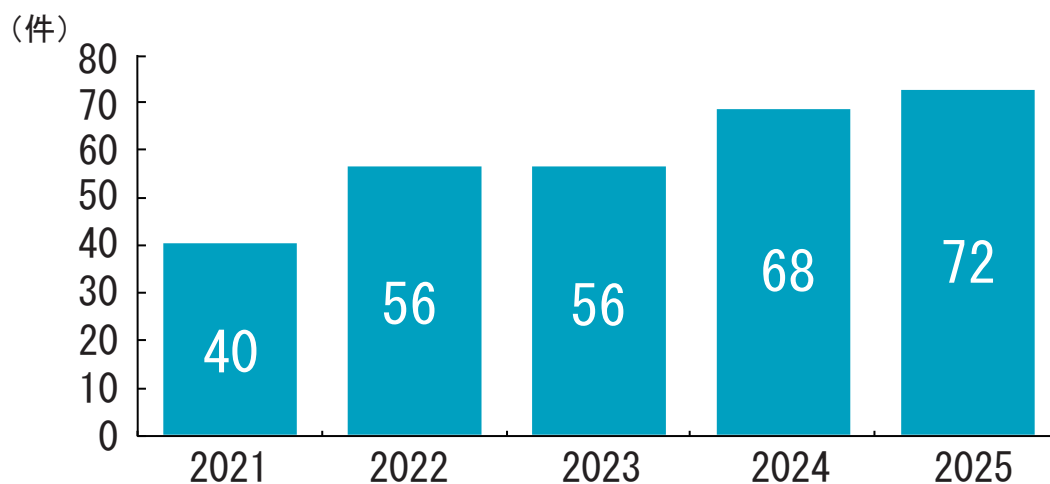
類型別では、交通弱者との事故が43件と最も多く、全体の84.3%を占めています。



(2) 対物共済

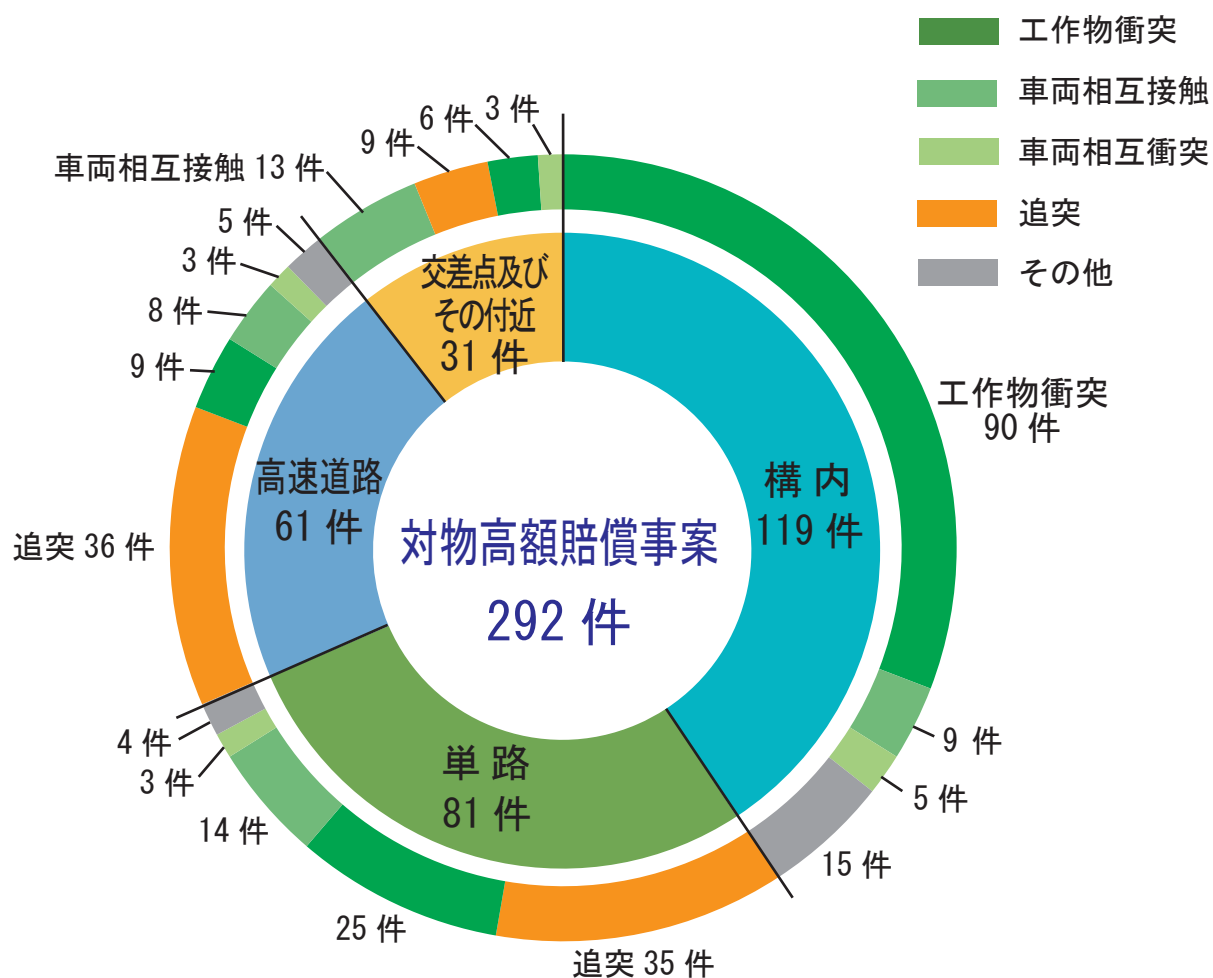
① 高額賠償事案（200万円以上）の事故発生状況

2025年度における高額賠償事案72件は、過去5年間で最も多い発生件数となり、年々増加傾向にあります。



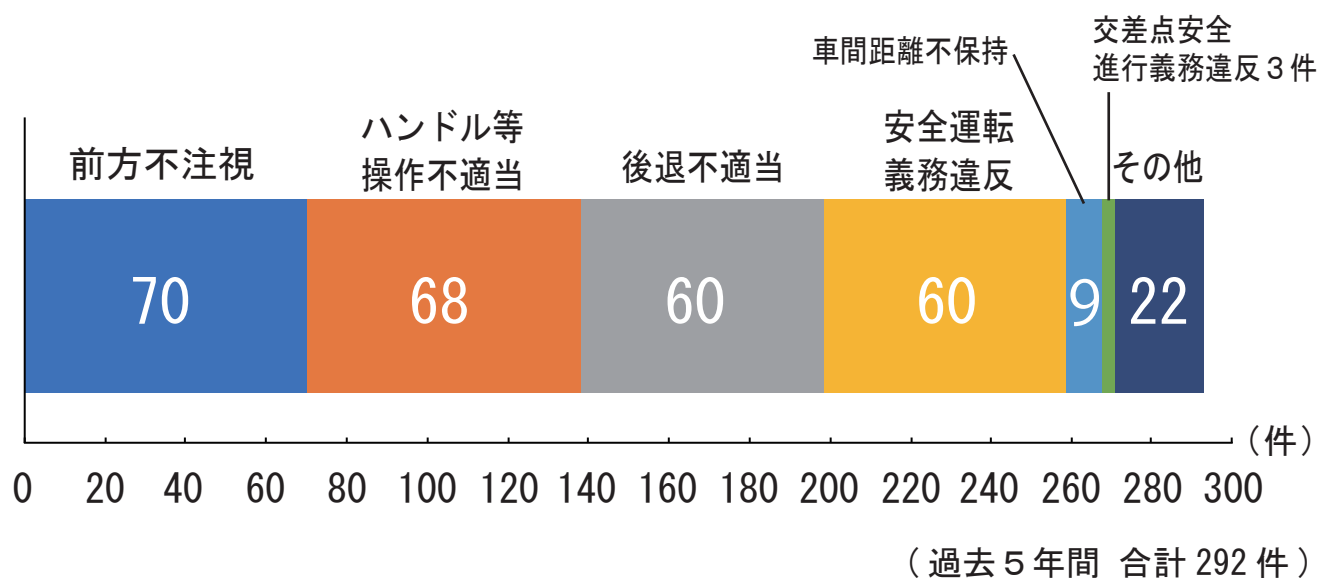
② 道路形状別の事故発生状況

道路形状別では、構内で発生した事故が119件と最も多く、そのうち工作物との衝突が75.6% (90件) と高い割合を占めています。



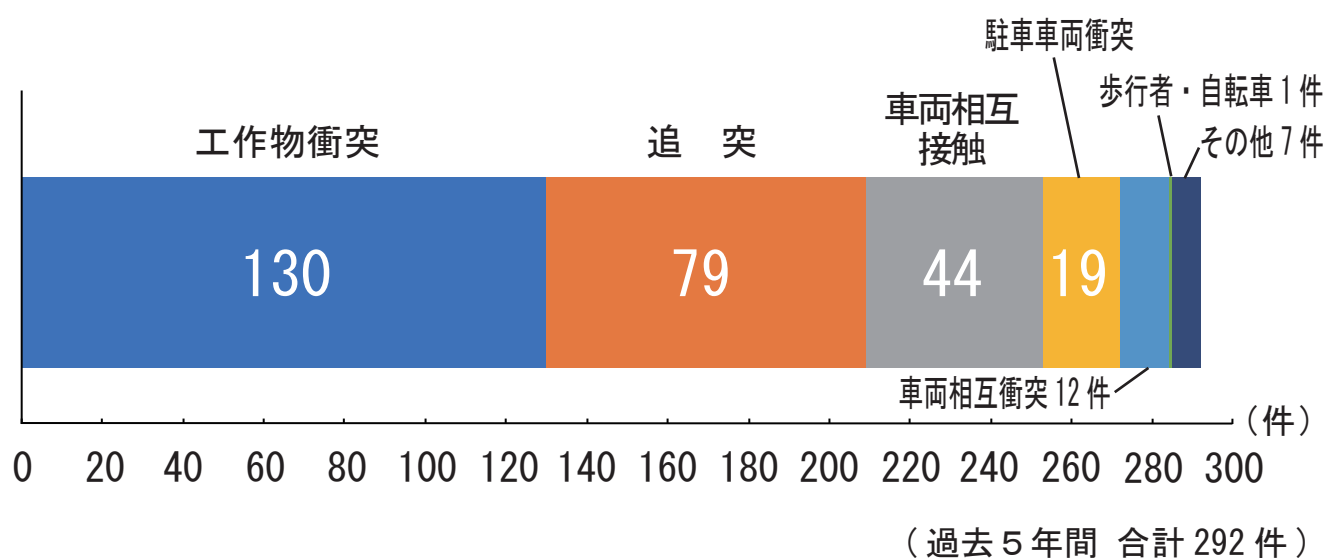
③ 原因別の事故発生状況

原因別では、前方不注視による事故が70件と最も多く発生しています。



④ 類型別の事故発生状況

類型別では、工作物衝突が130件と最も多く発生しており、高額賠償事案となる傾向にあります。



6. 過去5年間ににおける運転者年齢層別の事故発生状況（全事故）

(1) 運転者年齢層別の道路形状別事故発生状況

道路形状別の事故では、構内での事故が50歳～59歳で1,299件と最も多く発生しており、構内事故全体の36.9%を占めています。

（件）

区 分 \ 年 齢	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60～64歳	65歳以上	不 明	合 計
交差点及びその付近	7	143	145	399	730	221	267	9	1,921
単 路	9	223	277	561	1,026	351	394	23	2,864
高速道路	2	74	89	191	328	124	77	8	893
構 内	4	181	252	667	1,299	456	532	131	3,522
そ の 他		1	1	5	8		6		21
合 計	22	622	764	1,823	3,391	1,152	1,276	171	9,221

(2) 運転者年齢層別の類型別事故発生状況

類型別の事故では、工作物衝突が50歳～59歳で1,142件と最も多く発生しており、工作物衝突全体の36.3%を占めています。

（件）

事故類型		年 齢		19 歳以下	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60～64 歳	65 歳以上	不 明	合 計
車両相互	追 突	5	110	111	230	384	126	147	2	1,115		
	逆 突	1	20	21	55	120	46	68	3	334		
	接 触	3	144	166	419	749	249	255	24	2,009		
	その他衝突	2	57	82	201	368	106	105	17	938		
車両単独	駐車車両衝突	4	63	65	165	350	142	146	20	955		
	工作物衝突	5	187	257	597	1,142	390	468	98	3,144		
	その他	0	7	24	37	72	17	20	7	184		
歩行者・自転車・二輪車		2	34	38	119	206	76	67	0	542		
合 計		22	622	764	1,823	3,391	1,152	1,276	171	9,221		

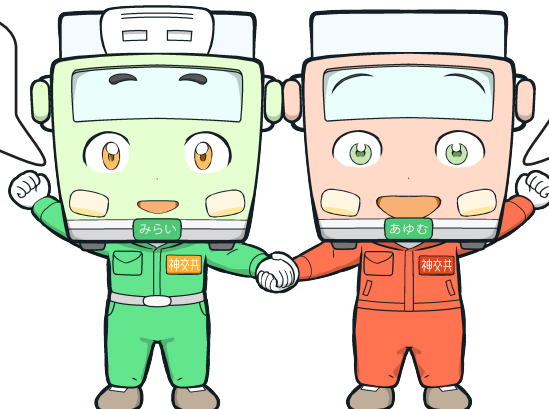
(3) 運転者年齢層別の時間帯別事故発生状況

時間帯別の事故では、8時～12時の時間帯で最も多く発生しており、年齢層では、50歳～59歳が最も多くなっています。

(件)

年 齢 時間帯	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60～64歳	65歳以上	不 明	合 計
0～2		6	4	37	52	19	19	4	141
2～4		10	17	36	70	29	22	4	188
4～6	1	29	32	87	159	58	57	7	430
6～8	1	78	104	220	396	132	148	19	1,098
8～10	6	115	149	360	700	238	270	37	1,875
10～12	5	118	153	376	659	204	262	38	1,815
12～14	2	94	102	226	486	160	204	26	1,300
14～16	3	78	88	185	381	150	161	14	1,060
16～18	3	61	57	127	237	83	82	12	662
18～20		17	29	96	116	43	27	3	331
20～22	1	7	18	44	78	27	10	3	188
22～24		9	11	29	57	9	14	4	133
合 計	22	622	764	1,823	3,391	1,152	1,276	171	9,221

事故の多い時間帯を
理解しよう！



午前中の運行に
注意しよう！



高齢運転者への事故防止のワンポイントアドバイス

一般的に、加齢による身体機能の低下に伴って、周囲への注意不足による認知の遅れ、判断の誤り、不適切なハンドルやブレーキ操作による操作上の誤りなどが起こりやすくなり、事故に繋がる恐れがあります。65歳以上を対象とした適齢診断の結果などを参考にいただき、事業主および管理者の皆様におかれましては、運転者の安全を守るため、社内での安全運転指導をお願いいたします。

1. 「注意力」「集中力」の維持

運転中にセンターラインを踏んだら要注意。「注意力」「集中力」が低下している可能性があります。悪化すれば、対向車との衝突事故を起こす可能性があるので、再度、「注意力」「集中力」への意識を高め安全運転に努めましょう。

2. 健康管理の徹底

自らの健康状態を正しく認識し、疲労を蓄積しないよう心掛けるとともに、食事・運動・休養など生活習慣に気を配り、日頃の体調管理に留意しましょう。

3. 過信せず安全確認をしっかりと

慣れた道でも過信せず、「ここは大丈夫だろう」から「ここは危ないかもしれない」といった警戒心を高めるように意識し、一時停止場所ではしっかり止まって安全確認をするようにしましょう。

4. コメンタリー運転の実践

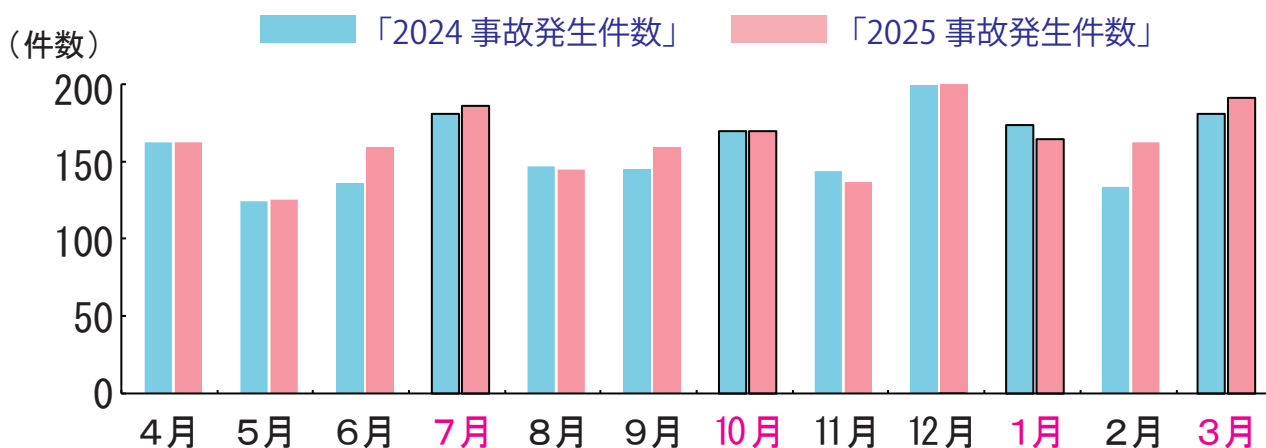
加齢に伴い、危険の発見が遅れがちになります。目に見える危険や隠れている危険を積極的に見つけ出す意識を常に持ち、コメンタリー運転を実践し、周囲への注意喚起を徹底しましょう。

7. 2025年度交通事故防止強化月の事故発生状況

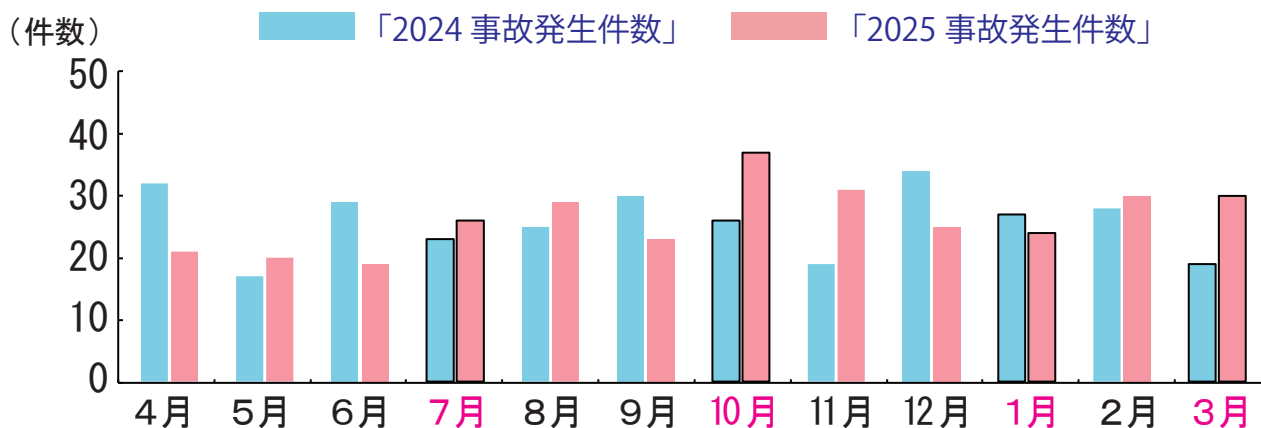
2025年度においては、過去3年間の事故多発月7月、10月、1月、3月の4か月を交通事故防止強化月に設定し、ポスターの配付や安全情報の配信など、事故防止への注意喚起に努めました。

(1) 月別事故発生件数

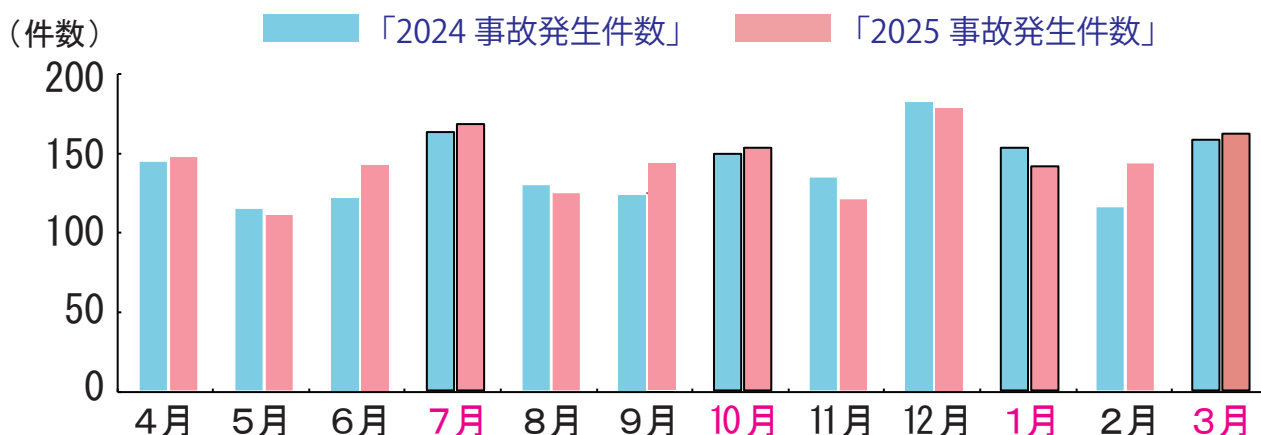
① 全事故



② 対人共済



③ 対物共済



8. 2025年度交通事故防止強化月の結果について

(1) 交通事故防止強化月ポスターおよび安全情報の作成

2025年度より過去3年間の事故多発月を強化月とし、交通事故防止事業の利用を推進してまいりました。強化月のより一層の事故減少に取り組むため、強化月ポスターを各強化月毎に配付したほか、安全情報により強化月の事故防止のお願いをし、翌月に結果を配信しました。

【強化月ポスター】



【安全情報】



(2) 重点項目別事故発生件数

交通事故防止重点項目「交差点事故の根絶」「追突事故の根絶」「構内事故の根絶」を掲げ、交通事故防止に向けた取り組みを行いましたが、残念ながら強化月については、1月の構内事故発生件数および3月の交差点事故を除き、強化月を除く月平均より多い結果となりました。

						(件)
重点項目	区分	7月	10月	1月	3月	月平均 (強化月を除く)
	交差点事故の根絶	31	38	39	29	30.3
	追突事故の根絶	22	25	21	21	16.3
	構内事故の根絶	63	60	59	73	59.4

9. 交協連傘下15組合の2025年度事故発生状況

交協連（全国トラック交通共済協同組合連合会）は、全国15のトラック交通共済協同組合を会員とする団体です。

(1) 事故発生状況（対人・対物事故）

区 分		神奈川 (件)	15組合合計 (件)	15組合平均 (件)	神奈川の割合 (%)
共済種目別					
対人	発生件数（件）	315	4,432	295	6.9
	死者数（人）	4	61	4	6.6
	傷者数（人）	393	5,659	377	6.9
	100両当りの事故件数	1.89	—	1.46	0.4（平均との差）
対物	発生件数（件）	1,755	29,053	1,885	6.0
	100両当りの事故件数	12.44	—	9.87	2.57（平均との差）

(2) 原因別事故発生状況（対人事故）

区 分	神奈川 (件)	神奈川の構成比 (%)	15組合合計 (件)	15組合の構成比 (%)
事故原因別				
前方不注視	99	31.4	1,826	41.1
車間距離不保持	12	3.8	312	7.0
後退不適當	12	3.8	217	4.9
ハンドル等操作不適當	64	20.3	644	14.4
徐行違反			7	0.2
左折違反			137	3.1
右折違反			109	2.5
一時停止違反			14	0.3
最高速度違反			1	0.1
優先通行違反			4	0.1
追い越し違反			17	0.4
横断（転回）違反			9	0.2
信号無視	6	1.9	88	2.0
酒酔い・酒気帯び			1	0.1
安全運転義務違反（安全速度）			6	0.1
安全運転義務違反（その他）	56	17.8	711	16.0
交差点安全進行義務違反	43	13.7	242	5.5
不明・その他の違反	23	7.3	87	2.0
合 計	315	100	4,432	100

(3) 類型別事故発生状況 (対人事故)

区 分		神奈川	神奈川の構成比	15 組合合計	15 組合の構成比
類型別		(件)	(%)	(件)	(%)
車 両	追突 (走行中)	29	9.2	359	8.1
	追突 (停止中)	105	33.3	1,497	33.8
	正面衝突	3	1.0	38	0.9
	側面衝突	13	4.1	242	5.5
	接 触	74	23.5	1,269	28.6
	その他	24	7.6	220	5.0
	小 計	248	78.7	3,625	81.8
	(うち 自動二輪・原付)	29	9.2	261	5.9
歩行者		23	7.3	228	5.1
自転車		39	12.4	451	10.2
単独 (その他)		5	1.6	128	2.9
列 車					
合 計		315	100	4,432	100

(4) 運転者年齢層別事故発生状況 (対人事故)

区 分		神奈川	神奈川の構成比	15 組合合計	15 組合の構成比
年 齢		(件)	(%)	(件)	(%)
20 歳未満		2	0.6	32	0.7
20～24 歳		8	2.5	137	3.1
25～29 歳		17	5.4	236	5.3
30～34 歳		7	2.2	236	5.3
35～39 歳		19	6.0	216	4.9
40～44 歳		26	8.3	336	7.6
45～49 歳		32	10.2	408	9.2
50～54 歳		61	19.4	748	16.9
55～59 歳		58	18.4	827	18.7
60～64 歳		51	16.2	673	15.2
65～69 歳		17	5.4	320	7.2
70 歳以上		17	5.4	263	5.9
合 計		315	100	4,432	100

(引用: 令和7年度 交通共済統計年報データ)

交協連作成の QRコードステッカー

をご活用ください!



120 種類のコンテンツ
(約1分30秒)を

毎日更新!!

※こちらの QR コードはサンプル動画となっております。

配信される内容は、現物ステッカー印字の QR のみで視聴可能となっております。

QR コードから **事故防止動画コンテンツ** をご覧いただけます。

車両に貼付いただき、事故防止への特段の取り組みをお願いいたします。

1 運転席付近に
QR コードの
ステッカーを貼付



2 ドライバーが
QR コードを
スマホで読み込む



3 安全運転や
運行管理に関する
動画を視聴



QRコードで安全運行